

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 公民館等の広報紙の現状と課題

4.5

- 2 トピックス 今、公民館が求められるもの
- 3 視点 大切にしていきたい“川内の心”
- 3 ひろば 私の地域貢献
- 6 実践記録シリーズ 多宝の山脈^{たほう やまなみ}に学ぶ 岩室ふるさと講座
- 7 サークル交流 たのしく、真剣に(新発田市) / 健康的な体力づくり(長岡市)
- 7 素顔拝見 入澤 和美さん(柏崎市) / 長谷川 央さん(新潟市)



刈羽村生涯学習センター ラピカ
開館10周年記念事業演劇発表会
「砂の丘に生きる」

表紙解説

出演者・スタッフ総勢 100名を超える参加者で作り上げました。刈羽村の昔、現在、未来を描いた演劇です。

今、公民館が求められるもの

会長 小山 孝夫 (上越市立公民館長)



今冬は久しぶりの大雪でしばらくの間、施設管理等に雪と苦戦しましたが、今では桜の話題が行き交い、冬から春への移り変わりの素晴らしさを、今年は特にはつきりと感じているのは私だけではないと思います。

さて、新潟県公民館連合会が創立されてから今年は六十周年を迎えます。昭和二十五年五月に創立されて以来、戦後の混乱期、高度経済成長期、そしてバブル崩壊期、金融危機、経済不況、あるいは少子高齢化、高度情報化へと社会の変遷とともに各公民館は、地域住民の皆さんの拠り所として大きな役割を果たしてきました。

しかし、平成の大合併により自治体数が減少し、旧市町村の公民館から新しい自治体の公民館へと環境が変わる中で、公民館に求められることも、多様化しているのではないのでしょうか。

上越市では、平成十七年一月の十四市町村による大合併から五年が経過したわけですが、五年間に様々な制度統一が進められてきました。

社会教育分野では、合併直後から平成二十年度まで社会教育

委員、公民館運営審議会委員が、それぞれの役割の中で運営されてきました。しかし、社会教育という同じ分野に関わる社会教育委員二十五名、公民館運営審議会委員二十名が、お互いに役割を補完することで、意見具申等をより効率的、効果的に発揮していく体制をつくろうと両委員の兼任化の議論を平成十九年度から進め、平成二十一年度から十七名の方が両委員を兼任しています。

両委員の具体的な取り組みとして、昨年九月から今年三月にかけて、社会教育事業を取り巻く現状や、解決に向けて取り組まなければならないこと等について熱い議論が重ねられました。「家庭教育」「青少年教育」「成人教育」「まちづくり・自治」と大きな領域でグループ協議を三回から四回にわたり行いました。「家庭教育」では、「親の都合で子ども会や地域の活動への参加を決められてしまうのではないか」「家庭教育以前に地域に子どもがいない」といった過疎化の問題等、「青少年教育」では、「中学生になったとたん地域活動への参加がなくなる」「地

域の大人も中高生を行事等に巻き込むことを最初からあきらめていたのではないかと、子どもと大人が地域と関わる循環づくりが必要なこと。

「成人教育」では、「まず住民が地域を好きになることが重要。それには地域の魅力を発見する事業を展開する。それが仲間作りに発展」等、「まちづくり・自治」では、「最初からまちづくり・自治といっても難しい

またあの頃に戻れる幸せ



事務局長 田原 達史

私は、昭和62年から3年間、新発田市で派遣社会教育主事をしました。このときから、私の社会教育・公民館との付き合いが始まりました。

その当時は、生涯学習時代の幕開けというときで、全国的にモデル事業等が展開され大変な熱気がありました。新潟県も例外ではなく、県内の市町村がこぞって生涯学習推進計画を立てて頑張っていました。また、生涯教育と生涯学習の

い。地域で住民同士が気軽に集まれる仕組みや場所が大切。地域の十年後を展望することが大切。町内会館や分館など小さな単位の居場所での学びを大切に」等、多くの提言がありました。今回の調査・研究活動自体が、まさに「まちづくり」や「地域づくり」の第一歩となつたと実感しています。

当市がこのほど実施した「市民の声アンケート」の中間報告では、住んでいる地域への愛着を感じている割合は八割。各地域でもそれぞれに魅力が必ずあるはず。公民館関係者は、自信をもって地域住民の拠り所

として公民館の役割を果たしてもらえればと思います。

県内自治体は三十になりましたが、今年度は県内の各公民館と連携を深めながら、新潟県公民館連合会創立六十周年記念事業を進めていきたいと考えております。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひします。



違いは何かとか、社会教育・公民館の位置づけはどうなるのかといったことが盛んに、かつ真面目に論議されていました。派遣の仲間や行政の社会教育・公民館担当者のみならず、新大の吉川弘先生の研究室へ勉強に通ったことが懐かしく思い出されます。

その後、教員でありながら社会教育・公民館の仕事をする機会に縁があつて、巻の「青少年研修センター」「下越教育事務所社会教育課」に勤めました。38年間の教員生活のうち、合わせて9年間にわたつて仕事をさせていただきました。

世間では「教員は世間知らず」の代表のように言われるときが

- ① 新発田市派遣社会教育主事 昭和62～平成元年
- ② 県立青少年研修センター副参事 平成10～13年
- ③ 県下越教育事務所社会教育課長 平成15～16年
- ④ 新潟地区公民館運営審議会委員 平成21年
- ⑤ 新潟市西蒲区在住

視点

大切にしていきたい “川内の心”

前 五泉市立川内小学校長
(現 新潟市立中野山小学校長) 小野 民部



川内は山紫水明の地で、地域の人々の教育への関心は高く、学校への期待も大きい。「川内っ子を育む会」を始めとし、校区内にはいくつもの教育支援団体があり、公民館(分館)との連携も図られている。「子どもたちのためなら…」は、川内のよき伝統であり、誇りでもある。当校は、地域を学び、地域で学ぶ「ふるさと学習」に力を入れている。地域の豊かな自然や文化・優れた人材を積極的に教育活動に生かし、地域との交流も重視している。『忠犬タマ公』を教材化し、「全

校歩き遠足」や「川内フェスティバル」等の体験活動を地域で実施してきた。「ふるさと学習」を推進してきた結果、地域の人々の思いや願いが学校によく伝わってくるようになってきた。当校は、二年後に統合するが、人々の願いは、子どもたちに「川内の心」を大切に受け継いでもらうことである。その心とは、ふるさとの自然や文化等への誇りである。これからも、地域とともに歩み、ふるさと川内を誇りに思う子どもたちを育てていくことが、当校の責務である。

H O T N E W S 掲 示 板

第2回自主財源確立のための 調査検討委員会開催

- ◇日時 平成22年3月18日(木)
13時30分～14時30分
- ◇会場 新潟市生涯学習センター 301講座室
- 1 開会あいさつ 小山副会長
- 2 報告・協議
 - (1)平成21年度収入支出決算見込みについて 資料1 (2月未締切)
 - (2)平成22年度県公連市町村負担金について 資料2 (省略)
 - (3)平成22年度社会教育団体補助金(新潟県)について 資料3 (省略)
 - (4)自主財源確立のための具体的な手だてについて
 - (5)県公連創立60周年記念第61回新潟県公民館大会について
 - (6)その他
- 3 閉会あいさつ 佐藤副委員長

平成21年度第2回編集委員会開催

- ◇日時 平成22年3月8日(月)
- ◇会場 新潟市生涯学習センター 302講座室
- 1 開会あいさつ 堀越基委員
- 2 内容
 - (1)新潟県公民館月報平成22年4月号～9月号の特集テーマについて
 - (2)その他
- 3 閉会あいさつ 松縄廣道委員

ひろば

私の地域貢献

糸魚川市社会教育委員 伊藤 昭雄

昨今、地域社会での生涯学習の大切さが従来にも増して重要視されている。そこで私は、「地域の住民が豊かな人生を送るために、文化的教養を高め、楽しく毎日を過ごす」ためのボランティアを通して、及ばずながら生涯学習を支援しようと考えた。

私は、地域の施設を使わせてもらい、平成十七年十月より、器楽アンサンブル活動を進めている。地域の自治体と地区公民館の後援を得て、地域から募った五歳～七十歳代までの十三名で楽しく活動し今日に至っている。

幸い、開設に当たり、廃校になった学校の楽器を市から無償で寄贈してもらっ



紙の現状と課題

重要性～

いうと、そうでもないのです。確かに、見やすさやレイアウトなどが専門家の手によるものと推察できる傾向はあります。ただ体裁が整いすぎてしまっていて、その館にあるはずの個性や公民館報の持つ親しみやすさを削いでしまっているものも見受けられるのです。

◇提供方法・内容に、もっと工夫を

民間企業は、すべての商品で消費者が何を求めているか、どんなものだったら売れるのだろうかということを考えてつくっています。商品が売れないと、死活問題だからです。館報を手にとって読んでもらわなくてもつぶれない公民館より、その姿勢は切実だと言えます。

2009年の日本の広告費は、5兆9,222億円でした。その年の国家予算が88.9兆円ですから、国家予算の約6.6%のお金が広告に使われている計算になります。

ところで公民館はいかがでしょうか。年々さまざまな予算が削減され、さらに広報にまで予算が回らないと嘆く声も聞きます。従来からあった単館による館報をやめて、市町村全体で1つの館報にしたり、また市町村の広報のなかに「公民館コーナー」などを設けて情報提供をしている公民館も増えてきました。

こんなふうに予算もなく、人も少なくなってきた公民館に、広報が果たして効果的にできるのでしょうか。

私の見解では、多くの公民館報やホームページが魅力的でないことの原因は、情熱や努力、予算等ではなく、「どうしたら効果的な館報をつくることができるか」「どのような写真を載せたらよいか」「どういうタイトルをつけるのが望ましいか」「どうしたら読んでもらえるのか」などのノウハウを、関係者が習得していないことが大きい

と私は感じています。

たとえば、館報はタイトル（見出し）の付け方だけで、大きく印象がかわります。スポーツ紙や週刊誌などは、見出しのデキが売り上げに大きくかかわってくるそうです。館報のタイトルは「お知らせ型」と言われるものが主流です。「今度こういう講座があります」「催し物を開催します」というタイトルです。これは中身を見なければ内容がわからないタイトルです。具体的に、ある公民館報の見出しを拾ってみると、「寿大学のご案内」「就任のごあいさつ」「地区スポーツ大会開幕」などです。これだけを見ても、なかに何が書いてあるのかわからないので、読者には負担ですし、「読もう」という気も起こりません。

しかし実際の新聞や雑誌ではいかがでしょうか。皆さんのお手元にある新聞などをご覧いただくとわかるかと思いますが、ほぼタイトルだけを見れば、中身に何が書いてあるのかわかるようになっています。そして、タイトルは「読んでみたい」というようなキャッチコピーに溢れています。

こんなふうにタイトルの付け方ひとつで、公民館報やホームページの印象がだいぶかわるので、その他、レイアウトの方法、写真の撮り方、ページ構成から、フォント、表記文字など、館報、ホームページにはたくさんのノウハウが必要です。しかし、実際にこのようなことを学んでいる職員は、おそらく少ないのではないかと思います。

公民館は単なる集会所としか思っていない人がまだまだいるなかで、きちんとした公民館像を住民に伝えていくことは、とても大切なことです。公民館がこれからも地域づくり・人づくりの中核を担うためには、広報は必要不可欠です。魅力的な広報活動の方法やテクニックを学ぶことは、これからの情報化社会では、公民館職員にとって大切な資質になることと思います。



特集

公民館等の広報

～ 広報力の



(社)全国公民館連合会事務局
次長 村上 英己

◇社会教育法に新設

社会教育法が平成20年に改正され、情報提供の
必要性の条文が新設されました。

「運営の状況に関する情報の提供」として、第
32条の2で「当該公民館の運営の状況に関する情
報を積極的に提供するように努めなければならない
い」と定められたのです。

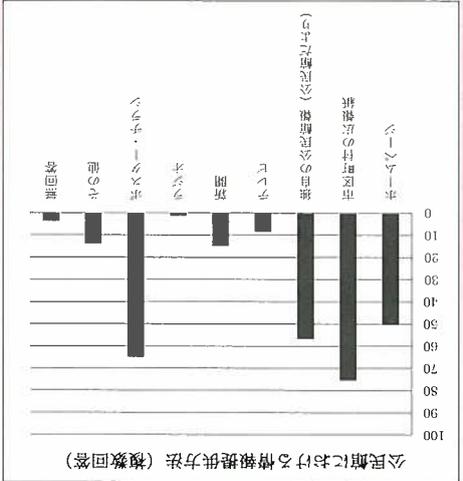
また社会教育法の附帯決議（これは法的な拘
束力はありませんが、法律案を可決する際に、そ
の法律の運用や、将来の立法によるその法律の改
善についての希望などを表明するもの）において
も、「各地域における学習ニーズの継続的な把握、
多様な取組に係る情報の収集と提供など、国民の
自発的、主体的な学習が担保されるよう配慮する
こと。」（参議院文教科学委員会）として、情報提
供について、特段の配慮を求めています。

また、これ以前の平成15年に改正された「公民
館の設置及び運営に関する基準」においては、「多
様な学習機会の提供に努める」ことに加えて、第
3条の2で「インターネットその他の高度情報通
信ネットワークの活用等の方法により、学習情報
の提供の充実に努めるものとする」と具体的な提
供方法まで言及しています。

◇予算があるからいいというわけではない

法で規定されるまでもなく、従来から、公民館
ではさまざまな手段で広報活動がおこなわれてき
ました。平成20年度の全国公民館連合会の統計調
査によれば、公民館における情報提供方法の全国
的な傾向として、「市町村の広報紙」が75.4%、「ホ
スター・チャリ」が65.1%、「独自の広報を発行」

が57.0%、「ホームページの提供」が50.4%とい
う結果が得られました。（下記表を参照）



全国公民館連合会では、5年前から広報関係の
コンクールを毎年開催しています。ホームペ
ジコンクール、次の年は広報コンクールと毎年交互
に開催しています。これらのコンクール開催のね
らいは、全国の公民館のホームページや広報の質
の向上を目指してのことです。

実際に集まった作品を拝見すると、出来ばえに
レベルの差があることがよくわかります。たいへ
んよくできているところと、さらに創意工夫が必
要なところとが歴然としているのです。

館報では、紙面に魅力を感じ、内容もよく工夫
され、「もっと読みたい」と思わせるような館報
が全体的に多くあります。それは、ホームペ
ジにおいても同様です。
これらは、予算がないから、職員が少ないから
ということが大きな原因の1つであることは否め
ませんが、しかし、一概にそうとも言いきれませ
ん。集まった館報のなかでは少ない予算、少ない
職員ながら、住民の力を借りたりしてすばらしい
内容のものを作りだしている公民館も少なくない
からです。
逆に予算のあるところからうまくできているかと

実践記録

145

シリーズ

たほう やまなみ 多宝の山脈に学ぶ 岩室ふるさと講座

新潟市西蒲区岩室地区公民館 竹内みよ子

1. はじめに

海、山、平野と、地域の宝を乗せた「岩室ふるさと講座」は、歴史や文化に触れ、沢山のひと々と出会いながら、3年間の「岩室再発見」の旅を続けた。この講座は、地域の魅力を一人でも多くの人に知ってほしいという試みであり、歴史や風土を含め、さまざまな角度からその魅力に迫り、ふるさと再認識につなげることを目指した。

2. 内容

歴史・文化

〈天神山城・山岳信仰と仏像・角田山麓の古墳〉

縄文文化にさかのぼる歴史から古墳をめくり、蒲原平野を支配した豪族の奥津城(墓)を訪ねた。天神山では山城の歴史にふれ、山岳信仰で訪ねた山腹に残る堂趾、廃寺に安置されている仏像は山岳信仰を彷彿とさせた。

〈間瀬大工匠の技～先人の足跡を追って～〉 3年継続事業

各地に遺る間瀬大工の技術の粋をつくして建築された寺院を廻った。13年を費やして建立した能登の古刹「阿岸本誓寺」(石川県文化財指定)では、施された繊細な彫刻の中にも荘厳さが漂い、先人の優れた技の遺構を前に当時の苦勞が偲ばれた。

自然・食

〈天神山の植物・間瀬海岸の記念物〉

- ①学術的にも貴重な植物の宝庫として知られる天神山から間瀬海岸の記念物を探索。自然界の命の重みを感じた。
- ②古くから伝えられる、様々な年中行事やそれに伴う郷土食の由来の一端にふれ、岩室が生んだ古の食の魅力を探求。

平成19年度「ふるさと講座」4回

回	日時	テーマ	参(男)	参(女)
1	7.14(土)	銅壺鍋(昔、漁師が舟で作った鍋)	15	20
2	9.29(土)	岩室の名水・多宝山の山野草	15	20
3	10.11(木)	間瀬大工匠の技(新潟市周辺)	16	24
4	11.10(土)	岩室の郷土食(のっぺ・けんさ焼き)	8	22
計			54	86

平成20年度「ふるさと講座」5回

1	6.21(土)	天神山城と館趾を訪ねて	24	16
2	8.27(水28休)	間瀬大工匠の技(石川県)	26	15
3	10. 5(日)	天神山の貴重な植物 秋の七草	8	26
4	11. 3(月)	山岳信仰の寺趾と仏像(多宝山～)	28	15
5	11.29(土)	郷土料理(おこわだんご)	6	42
計			92	114

平成21年度「ふるさと講座」4回

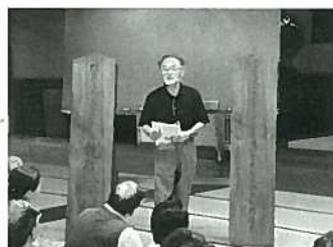
1	7.11(土)	間瀬海岸の植物(バシクルモン他)	13	25
2	8.26(水27休)	間瀬大工匠の技(信州路～)	25	19
3	10.17(土)	古墳をめぐる(菅蒲塚・山谷他・観音山・桶塚)	17	18
4	11.28(土)	持斎膳を再現(旧庄屋 佐藤家)	7	25
計			62	87
参加者3年間合計			208	286



「山岳信仰の寺趾と仏像」
宝光院(弥彦)に安置されている
龍池寺遺像多聞天像



「古墳をめぐる」
縄文の暮らしにロマンを
求めて



「間瀬大工匠の技」
寺に残る棟札から
先人の足跡を追って



「岩室の郷土料理」
いろいろある風景から
けんさ焼き

3. おわりに

3年間の資料からふり返ってみると、そこには「地域が求めているもの」を模索して取り組んだ当時の思いが詰まっていて感慨深いものがある。

地域に遺る歴史や自然の偉大さが人々の文化に大きな影響を与え、今につながっていることを改めて感じることとなった。受講者からの満足度も高く「内容が豊富でとても有意義であった。来年が楽しみです」との声も多数寄せられている。

講座を通して人々の地域への意識の高まりが伝わり、講師等の人材発掘にもつながる発展を見せた。3年間の成果は「ふるさとガイドマップ」作成という改たなる課題を乗せて、新年度に向け躍動の時を迎えようとしている。

恵贈資料紹介

新潟県の歴史

知っておきたい新潟県の歴史編集委員会編

新潟県の歴史を読み、歴史を訪ねる著作物の中で、すんなり自然に入れる歴史入門書のようなものです。知っておきたい」という冠のことは、どこからでも読め、しかも見開き2頁、多くの漢字にルビを振るなど、読み易く、分かり易く記述され、子どもから高齢者に至るまで活用できるよう工夫されており、

一〇一項目のテーマで、県内で



この分野で成果を挙げておられる執筆者六十余名の方は、きつと皆様の身近な知人も居られるのではないのでしょうか。

当新潟県公民館連合会も推薦団体に名を連ねております。公民館の図書資料室にも一冊を。
 ◆お問い合わせ連絡先
 ・(株)新潟日報事業社出版部
 〒九五五-1181-31
 新潟市中央区
 白山浦二一六四五-154
 TEL 〇二五-1333-1200
 ・定価二、五三〇円
 ・(本体二、四〇〇円+税)

Net work ネットワーク

特集
 全国大会のレポートから、公民館が直面する課題の論考まで。鋭く迫ります。

circle
 元気いっぱい！仲間もいっぱい！エネルギーあふれる団体が満載です。

視
 新潟県社会教育実践情報誌の決定版 公民館を知るには公民館月報から！

実践記録
 県内各地域の公民館の取り組みの最前線より、魅力的な企画をご紹介します。

新規購読募集中
 ・公民館職員・生涯学習関係者・公民館利用者・学校関係者 など社会教育に携わる全ての方、必見！
 新潟県内の生涯学習の動向をはじめ、公民館の最前線のいきいきとした活動の様子がよくわかる、新潟県社会教育実践情報誌の決定版。ぜひご購読ください。
 ■ 定価 1部150円 年間購読料1,800円(税・送料別) ■

新潟県公民館連合会
 お申し込み・お問い合わせ
 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX (025) 224-6073 E-Mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp

新潟県公民館月報 年間購読申込書
 平成22年 月分より 部 申込みます。なお、代金は請求により支払います。
 お名前: ■年間購読料: 800円(税込、送料含む)
 ■お申し込みはFAXまたはメールでお送りください。
 TEL: FAX:
 ご住所: 〒

美しい国土と豊かな環境を未来の世代に

過疎地域には、安全・安心な食料や水の供給、エネルギーの提供、国土の保全、災害の防止、地球温暖化の防止等のほか、都会の人々のやすらぎや教育の場として、国民全体の安全・安心な生活を支える極めて重要な公益的機能があります。

過疎問題の解決を国民全体の課題と捉え、継続した対策が必要であると考えています。

新潟県過疎地域自立促進協議会
 会長(出雲崎町長) 小林 則 幸
 新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
 TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

- ◆新潟県内の過疎市町村(14市町村)
 長岡市、上越市、柏崎市、十日町市、村上市、糸魚川市、妙高市、佐渡市、魚沼市、阿賀町、出雲崎町、津南町、関川村、粟島浦村

あ と が き

県内の市町村合併は、川口町が長岡市へ編入合併することにより、一応終了したようです。

若干あるようですが、次号で紹介する予定としております。
 今月号は、引き継ぎも兼ねて新旧事務局長で作成しました。

(鈴木 記)